

●本書の特色

・きわめて個性的で、抜群の技量と現代人に訴える斬新さを持ち、ときに暗いユーモアと残酷さに傾く又兵衛の絵画。その多彩な画業の全貌を、風俗画、故事人物画、絵巻、歌仙絵、山水画等に分類して示す。

・主要作品は、部分図を含む大型カラー図版で掲載。歌仙絵など点数の多い作品も基本的に全点収録する。

・12巻以上から成り数種類もある長大な絵巻群。その主要なもの全巻カラー図版で掲載。公開される機会が稀な絵巻の巻頭から巻末までを紙上で熟覧することが可能となる。絵巻の理解のため、場面解説および詞書の翻刻も収録。

・現在望みうる最高のメンバーによる、新知見を盛り込んだ充実の論考、作品理解の助けとなる詳細な解説を載せる。また、関連史料や参考作品、参考文献を収録。図版とテキストの両面から、謎に満ちた又兵衛の真相に迫る。

・これまでの又兵衛研究の到達点を示し、今後の研究の基本文献となる充実した内容。

●監修・執筆

辻惟雄「東京大学名誉教授、MIHOMUSEUM館長」

佐藤康宏「東京大学大学院人文社会科学系研究科文学部教授」

●執筆者一覧(50音順)

飯島沙耶子「新潟県立万代島美術館学芸員」

太田彩「宮内庁三の丸尚蔵館主任研究官」

筒井忠仁「文化庁文化財部美術学芸課文部科学技官」

戸田浩之「福井県立美術館主任学芸員」

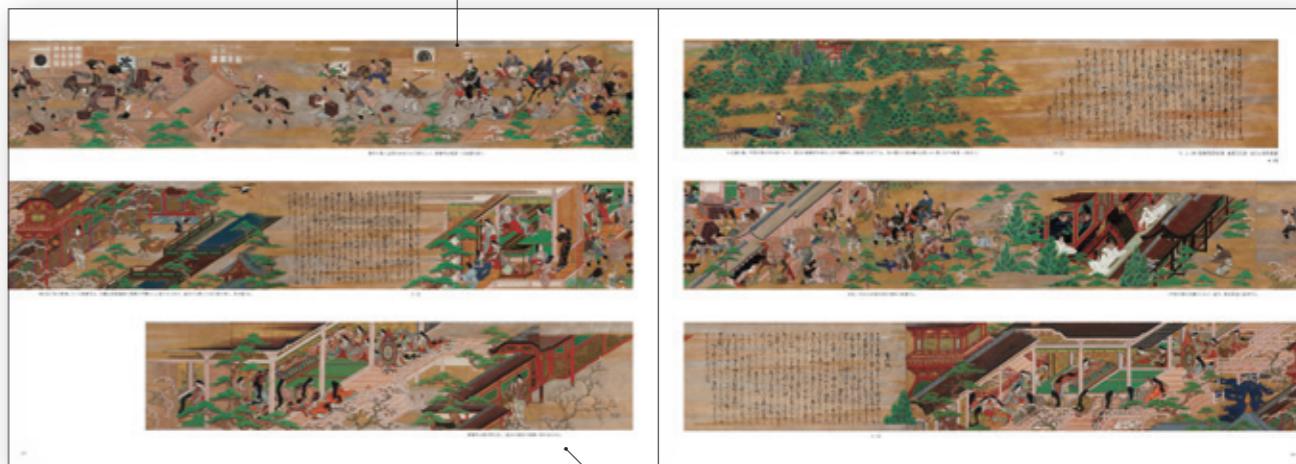
畠山浩一「東北大学大学院文学研究科・専門研究員」

廣海伸彦「公益財団法人 出光美術館学芸員」

深谷大「早稲田大学演劇博物館招聘研究員」



絵巻は全巻カラー掲載



上(浄)瑠璃物語絵巻(1巻より)

◆絵画篇には絵巻5件を含め計103件の作品を部分図も入れオールカラーで掲載。

絵巻場面解説

●絵画篇縮見本(絵巻作品掲載頁20%縮小)

# 岩佐又兵衛全集

辻惟雄・佐藤康宏 監修・編著

実質的に浮世絵の創始者であった岩佐又兵衛。

しかし、この日本絵画史上、最も重要な画家のひとりとは、長らく謎に包まれた存在であった。  
〈奇想の系譜〉のトップバッター、又兵衛の全作品を初めて集成した大型美術書。

藝華書院

## 岩佐又兵衛全集

辻惟雄・佐藤康宏 監修・編著

全2巻 絵画篇 [A3判 352ページ 上製]

研究篇 [A4判 328ページ 上製]

定価: 本体180,000円+税 (分売不可)

ISBN978-4-9904055-9-5 C3071

2013年  
4月刊行

**お客様各位** 弊社は直販のみの販売システムです。ホームページからの専用フォーム・メール・ファックス・電話・はがき等で直接ご注文ください。振込用紙同封の上、商品をお送りいたします。また、書店にご注文される場合、書店様から弊社へ連絡いただけますよう、お伝えください。

**書店様各位** 弊社は直販のみの販売システムです。ご注文の場合、ホームページからの専用フォーム・メール・ファックス・電話にてお問い合わせください。条件等ご連絡の上、納品させていただきます。

お取扱書店

注文書

株式会社

藝華書院

〒113-0033 東京都文京区本郷 1-35-27

Tel: 03-5842-3815 Fax: 03-5842-3816

E-mail: info@geika.co.jp

http://www.geika.co.jp

# 『岩佐又兵衛全集』への期待

辻惟雄

戦後の岩佐又兵衛の研究は、これまで少数の学者によって細々と続けられてきた感がある。その理由はいろいろあろうが、MOA美術館や宮内庁三の丸尚蔵館に所蔵される〈又兵衛風古浄瑠璃絵巻群〉が、あまりにも膨大な長さであることが、全巻にわたる調査を困難にしていた。加えて「山中常盤」や「堀江物語」の内容が血まみれのシーンに満ちていることが、所蔵者の全巻公開をためらわせて来た。

だが最近では、又兵衛研究を志す若い世代の研究者も増えつつある。折から藝華書院が、〈絵巻群〉の全巻を含めた、すべてカラー図版による『岩佐又兵衛全集』の発行をくわだてた。空前の企画ゆえ、実現が危ぶまれたが、編集作業は順調に進んで発売の運びになったと聞き、喜びにたえない。私の何よりの喜びは、又兵衛研究の分野に鋭い感性と論理を駆使される。東京大学の佐藤康宏教授を、共同監修者に迎えることができた点である。合わせて又兵衛研究に意欲を燃やす若い世代の研究者たち——飯島沙耶子、太田彩、筒井忠仁、戸田浩之、畠山浩一、廣海伸彦、深谷大の諸氏の寄稿を得た。さまざまな角度や視点による論考が、伝記・作品の両面にわたって依然謎の多い岩佐又兵衛の全体像を、新しく輪郭づけてくれる、そのことを心から期待したい。

波乱の多い数奇な生い立ち、個性的な作風、残された膨大な絵巻群、時代の風俗画に与えた影響——そのどれをとっても又兵衛の存在は興味をそそる。

もとより、個性を持たないすぐれた画家、すぐれた作品はありえないのだが、又兵衛の個性はなかでも注目に値する。彼と同時代を伴走した俵屋宗達の明るい個性とは、あまりにも対照的な彼の個性を、私はかつて、宗達の太陽に対し、月に例えたことがある。しかし、宗達はまさしく太陽だが、又兵衛は果たして月か。月にしては、あまりにも歪んだ形をしており、その形の歪みに、彼の心の歪みが投影されているのではないか……、こんなことを考えていると、それでは、舟木本「洛中洛外図屏風」はどうなのだ、と問う声がある。

長い間私は、こんなに明るい又兵衛はないと思いついてきた。絵巻「山中常盤」を、こんなに俗な又兵衛はありえないと思いついた藤懸静也教授と同じ過ちを、自分も冒していたわけだ。

舟木本「洛中洛外図屏風」(東京国立博物館蔵)は、近世初期風俗画の中でも屈指の傑作である。この屏風の、たぐいまれな特徴は、画中年代——いつの時点での京都が描いてあるか——と、制作年代——実際にいつ描かれたか——の両者がぴたり合致する、という点である。刻々変貌する十七世紀初頭の京の景観とそのファッション、人々の享楽の有様、いわゆる「時世粧」を、この屏風のようにリアルタイムで描いた洛中洛外図を、私は他に知らない。この唯一例外的な「ウキヨ洛中洛外図」が、若かりし頃の又兵衛の面目を伝えるものだとすれば、その持つ意味は限りなく大きい。

これからの又兵衛研究、観賞に、本全集が果たす役割もまた、限りなく大きいものとなるだろう。



1. 上(浄)瑠璃物語絵巻(5巻より) 重要文化財 MOA美術館蔵
2. 山中常盤物語絵巻(9巻より) 重要文化財 MOA美術館蔵
3. 堀江巻雙紙(堀江II・10巻より) MOA美術館蔵
4. 人麿・貴之図 重要文化財 MOA美術館蔵
5. 鹿と貴人図(伊勢物語) MOA美術館蔵